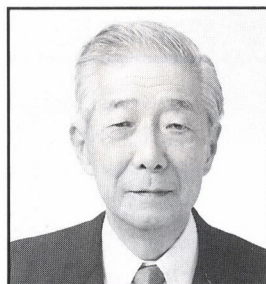


名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 中村 正久 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、東京工業大学名誉教授、長岡技術科学大学名誉教授中村正久殿のご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は昭和18年に東京工業大学金属工学科を卒業後、日本製鐵株式会社を経て、昭和21年東京工業大学助手に着任、昭和33年同大学助教授に昇任、昭和42年同大学教授に昇任後、昭和54年4月長岡技術科学大学教授に配置換えになり、昭和58年同大学副学長に昇任、昭和62年9月に退官されました。

東京工業大学では、昭和33年に建設した大型回転円板高速引張試験機を使用し、液体窒素温度から融点近くの高温まで各種金属材料の塑性挙動と脆性に対する変形速度の効果を調べて多くの興味ある結果を得ています。特に実際寸法の試験片で変形応力の速度依存性を明らかにした研究は、世界的に見て唯一の結果を提供しています。また、昭和36年には一連のねじり試験機を制作し、5桁に及ぶ変形速度の実験を行って、クリープ変形から熱間加工に及ぶ広い変形速度範囲で変形組織との関係を明らかにし、工業用構造材料の高機能化に繋がる基礎資料を提供しています。さらに、内部摩擦法、軽装化シャルピー法、オージェ電子分光法、アコースティックエミッション法等の実験手法を積極的に取り入れ、金属工学の発展に寄与するとともに産業界にも大きく貢献されました。

以上の業績に対し本会からは、昭和38年渡辺義介記念賞、同39年依論文賞、同51年ヘンダーソン賞、同60年野呂賞を贈るとともに、平成6年には名誉会員に推挙しております。また昭和51年には日本金属学会から谷川・ハリス賞、平成3年には日本材料学会賞を贈られ、平成5年には勲三等旭日中綬章の榮譽を受けられました。

また氏は本会理事3期、副会長1期を歴任したほか、事業の運営に積極的に参画し、主として編集委員会に属し、とくに欧文誌に関しては、Tetsu-to-Hagané Overseasの時代から一貫して活動し、Trans. I. S. I. J. 分科会主査も務められました。

氏が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成11年9月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 岸 輝雄